

感染症共同研究拠点 研究棟の建設計画について

現在、BSL-4施設（実験棟）を建設中ですが、実験棟に隣接して研究棟を建設することを計画しています。研究棟の詳細については以下の通りです。

- 教育・研究活動及び実験棟管理運営業務を行う。
- 実験棟における研究活動を円滑に進められる環境を整備するため、実験棟で行う研究の準備、実験棟を利用する者の教育訓練等を行う。
- 新型コロナウイルス感染症関連研究等も行う。
- 本研究棟では一種病原体（BSL-4病原体）は扱わない。
- 施設の安全な管理・運用が行える環境を整えるため、現在学内各所に分散している感染症共同研究拠点のスタッフを実験棟の近くに集約する。
- 建設は2021年度の計画であり、本年度中に設計などの作業を開始予定。



Q 現在建設中の「実験棟」の他に、「研究棟」を建設する予定は最初からあったのでしょうか。

A 当初、事務組織等はBSL-4の実験棟に入る予定でしたが、安全管理上、実験棟にはBSL-4病原体を用いた実験に携わる研究者と管理・運営者以外は立ち入らないようにすべきというご意見をいただきました。その考えに沿って、安全管理をより厳格に行なうという観点から、実験棟の中はBSL-4実験室及びそれらの運用に直接必要な部屋のみとしましたので、実験棟に隣接してBSL-4実験棟をサポートするための建物（研究棟）が必要になりました。

第30回 2020.08.21開催 第31回 2020.08.25開催 地域連絡協議会 主なご意見



Q 長崎大学における新型コロナウイルス感染症ワクチンや治療薬の研究開発の状況はいかがでしょうか。

A ワクチンは、安全性が効果とともに一番重要なことですので、動物実験等も十分行いながら、安全性が高いものを開発していく方針です。長崎大学では、メッセンジャーRNAを用いたもの、不活化ワクチン、生ワクチンなどを中心に開発を進めているところです。治療薬の開発についても、複数の製薬会社と共同で行っています。

Q 安田教授が開発された^{ランプ}蛍光LAMP法検査システムはどれくらい利用が広がっているのですか。

A キヤノンメディカルと共同開発した蛍光LAMP法検査システムが県内15の医療機関と検査場に重点的に配備されました。福岡県や空港、スポーツのイベント等でも使用されていく予定です。
※現在、より多くの検体処理が可能な機器の開発も進行中です。



蛍光LAMP法検査システム

Q 感染症共同研究拠点の規則の中に明確に軍事利用はできないような規制をつくる予定はないのでしょうか。

A 検討中です。軍事研究を行えないことを明文化すべきというご指摘に関しては、長崎大学共同研究規程第3条に「軍事等への寄与を目的とする研究は受け入れの対象としない」とうたっており、軍事研究に加担するような研究は実施できないようになっています。また研究費に関しても、防衛装備庁からの研究費等は受領しないという理事通知が毎年出されているため、軍事研究はできません。

